

古宮遺跡



<http://digitalarchiveproject.jp/information/古宮遺跡>



古宮遺跡は、手取川右岸の安久濤ヶ淵(あくどがふち)と呼ばれる河岸段丘上にある。古宮の名称の由来は、文明 12 年(1480)ま加賀国の一ノ宮であった白山本宮があったことによる。白山本宮は、文明 12 年に火災により、かつてから約 800m 南東にある三ノ宮と合祀し現在にいたる。安久濤ヶ淵は、手取川右岸の瀨(とろ)の景観を示し、白山市指定名勝に指定されている。安久濤ヶ淵は、近世期、「空殿」ともかかれ、白山本宮が移転した事を物がっている。遺跡の北側には、昭和7年まで対岸を結ぶ舟渡しがあつた。義経記には、東国落ちする義経と弁慶がこの舟渡しを利用し、白山本宮に参詣したことが描かれている。現在、遺跡地は白山市が管理する古宮公園となっている。公園の下には、七ヶ用水隧道があり、幕末から明治 36 年に至って開鑿された隧道の紹介と開鑿にかかわった人物の顕彰碑が建立されている。公園の中央には、白山比咩神社が管理する水戸明神の社祠があり、秋の七ヶ用水と白山比咩神社の氏子により祭祀が行われている。水戸明神は、高さ 1.5m 直径 5m の岩の上に立っている。平成 7 年(1995 年)と平成 30 年(2018)に発掘調査が行われ、10 世紀中頃から 16 世紀後半にかけての建物群跡が発見されている。平成 7 年の発掘調査では、約 4.5m 四方で深さ 80 cm の土坑に祭祀で使用されたと思われる素焼きのかわらけ約 1700 枚を埋納した遺構が発見され、古宮公園内に移設し復元展示されている。

■特色

白山信仰遺跡、神社跡として基調な歴史遺産である。



001_古宮遺跡000



002_古宮遺跡001



003_古宮遺跡002



004_古宮遺跡003



005_古宮遺跡004



006_古宮遺跡005



007_古宮遺跡006



008_古宮遺跡007



009_古宮遺跡008



010_古宮遺跡009



011_古宮遺跡010



012_古宮遺跡011



013_古宮遺跡012



014_古宮遺跡013



015_古宮遺跡014



016_古宮遺跡015



017_古宮遺跡016



018_古宮遺跡017



019_古宮遺跡018



020_古宮遺跡019



021_古宮遺跡020



022_古宮遺跡021



023_古宮遺跡022



024_古宮遺跡023



025_古宮遺跡024



026_古宮遺跡025



027_古宮遺跡026



028_古宮遺跡027



029_古宮遺跡028



030_古宮遺跡029



031_古宮遺跡030



032_古宮遺跡031



033_古宮遺跡032



034_古宮遺跡033



035_古宮遺跡034



036_古宮遺跡035



037_古宮遺跡036



038_古宮遺跡037



039_古宮遺跡038



040_古宮遺跡039



041_古宮遺跡040



042_古宮遺跡041



043_古宮遺跡042



044_古宮遺跡043



045_古宮遺跡044



046_古宮遺跡045



047_古宮遺跡046



048_古宮遺跡047